

# 事業報告書

令和 年 月 日

## 1. 申請者等について

### (1) 申請者（事業の実施主体）

①事業者名・団体名	〇〇運送株式会社
②代表者役職・氏名	代表取締役 〇〇 〇〇
③青年組織所属者役職・氏名 (②と異なる場合に記入)	専務取締役 〇〇 〇〇
④所在地	〒000-0000 〇〇県〇〇市〇〇〇〇
⑤電話番号	00-0000-0000
⑥設立年月日	昭和〇〇年〇〇月〇〇日
⑦資本金の額 (青年組織の場合は記入不要)	〇〇円
⑧従業員数 (青年組織の場合は会員数を記載)	〇〇名
⑨保有車両数 (青年組織の場合は記入不要)	〇〇両

### (2) 申請担当者（全日本トラック協会事務局からの連絡を受ける方）

①事業者名・団体名	〇〇運送株式会社
②氏名	専務取締役 〇〇 〇〇
③電話番号	00-0000-0000
④メールアドレス	****@****.co.jp

### (3) 共同実施主体

(申請にかかる事業を他の事業者・団体等と共同で実施した場合のみ記載)

①事業者名・団体名	株式会社〇〇物流
②代表者役職・氏名	代表取締役 〇〇 〇〇
③申請者との関係性	提携先運送事業者

※共同実施主体がある場合は、2. (4) 事業の内容欄において、各実施主体の役割分担を明確に記載すること。

## 2. 事業内容について

### (1) 事業の概要

①事業の種類 (該当するものに○)	1. 社会貢献事業 ②. 収益性向上事業 3. 安全対策事業 4. 環境対策事業 5. その他 (内容: _____)
②事業名称	介護の必要な高齢者向け引越サービス事業
③事業の概要 (5行以内で簡潔に記載)	顧客を高齢者に絞り、ホームヘルパー有資格者の社員が作業に加わった高齢者入居施設への引越運送事業を実施するもの。

### (2) 事業を実施した背景

- ・取組の背景にどのような課題・問題意識があったか等を記載してください。
- ・図表等を挿入・添付しても差し支えありません (以下同様)。

<p>○独居の高齢者が施設 (例えばグループホームや老人ホームなど) へ引越する場合、介護スタッフが高齢者からの依頼を受け、十分な検討をする余裕がないまま引越業者を選定し、引越依頼をしていた。介護スタッフは高齢者の荷造り等、引越前の準備を補助するが、決められた時間内に介護サービスもこなさないといけないため、十分な引越準備を行うのが難しかった (現行の介護サービスには、引越準備のサービスは含まれていない)。このように、引越まで万全の準備ができないまま施設へ入居することとなるという課題があった。</p> <p>○また、弊社が手掛ける一般顧客を対象とする引越運送は、参入事業者が多く競争が激化しており、収益性が悪化気味であった。また季節波動も大きく、人員確保が難しかった。</p>
--

### (3) 事業の目的

- ・ (2) の背景を踏まえ、事業を通じて何を実現しようとしたか等を記載してください。

<p>○介護の必要な高齢者向け引越サービスを実施することにより、既存の介護サービスでカバーされていない部分に付加価値を提供する。</p> <p>○また、介護の必要な高齢者向け引越サービスは、日本の高齢化の状況から今後の需要が見込めるため、これを実施することにより、弊社の収益を改善する。</p>
---

#### (4) 事業の内容

- ・(3)の目的を実現するために、具体的にどのような取組を行ったか等を記載してください。

- 次のようなサービスを設計し、事業化した。
  - ・高齢者の引越が決まったら、ヘルプステーション等のケアマネージャーから弊社に連絡していただき、引越までのスケジュールと引越の内容を連絡する。その際、弊社専門スタッフ（高齢者の特性や介護の仕組みについて詳しいホームヘルパー有資格者）が、ケアマネージャーと契約に至るまでのプロセス、契約金額等を相談する。
  - ・介護スタッフの高齢者への訪問日に合わせて、弊社専門スタッフも訪問し、引越準備を行う。ホームヘルパー有資格者が準備に携わることにより、高齢者、高齢者の家族、介護スタッフの方から安心してもらえる。
  - ・なお、スケジュールやエリアの都合から弊社が直接運送を行うのが難しい場合には、株式会社〇〇物流に実運送を委託することとした。この場合にも、弊社専門スタッフが事前の準備までは行っており、お客様や発着地情報を把握の上、株式会社〇〇物流に情報共有を行い、スムーズに運送が行えるように工夫した。
  - ・さらに、施設への入居だけでなく施設からの退去や、万が一のことがあった際のご遺品の処理整理、お部屋の掃除、リサイクルに至るまでをトータルにサポートすることとした。家財やご遺品は一時保管する必要があることから、保管施設を建設し、適切に管理できるようにした。

#### (5) 事業の効果

- ・(3)の目的・(4)の内容を踏まえ、どのような成果が得られたかを記載してください。効果を示すデータや数値がある場合は、なるべく記載してください。

- ・「ホームヘルパー有資格者のいる引越サービス」という付加価値を提供することにより、他社との差別化、収益性の向上が図れた。  
(売上が〇%、営業利益が〇%向上した)
- ・現行の介護サービスでは認められていない引越サービスを、介護スタッフがする必要がなく、質の高い本当に必要な介護サービスを提供することで高齢者のQOLの向上に繋がった。  
(利用者ヒアリングやアンケート調査の結果、〇%が「満足」と回答した)
- ・介護施設とタイアップした高齢者向けサービスを提供したことにより、高齢者自身の介護サービスの全体の質を上げることができ、高齢者、介護サービス提供者、運送事業者三方の利益を生むことができた。  
(介護サービス提供者からの意見は別添のとおり)
- ・通常の引越と違って季節変動が小さいため、安定的な収益が得られた。  
(閑散期(〇月)の売り上げが〇年比〇割向上した)

#### (6) 事業に係る収支

- ・事業に要したすべての収入・支出を具体的に記載してください。取組の費用対効果を評価できない場合、採点不能となるおそれがあります。

収入項目	内 容	費 用
営業収入	新規事業による増加分	〇〇〇円

支出項目	内 容	費 用
車両購入費	単身引越・高齢者施設構内への出入りに適した小型トラックの購入費	〇〇〇円
車両改造・架装費	上記小型トラックへのテールゲートリフター装着等費用	〇〇〇円
保管施設建設費	遺品等管理用の保管施設の建設費	〇〇〇円
システム開発費	引越のスケジュールや保管品の管理をするためのシステム開発費	〇〇〇円
運送再委託費	提携先である〇〇物流株式会社に運送を再委託した費用（〇か月間で〇件）	〇〇〇円

#### (7) 事業のスケジュール

- ・立ち上げ準備、事業の実施等のスケジュールを時系列に沿って可能な範囲で記載してください。

項 目	時 期
①事業立ち上げの計画	2019年3月～5月
②保管施設の建設	2019年4月～6月
③情報システム準備	2019年4月～6月
④事業立ち上げ	2019年6月～8月
⑤事業開始	2019年8月～

(8) その他

- ・「目的の明確性・具体性」「事業の有効性」「創意・工夫性」及び「他の事業者への普及性」に関して、優れた点がある場合は、その内容を記載して下さい。

項 目	優れた点
目的の明確性・ 具体性	介護サービスにおける「独居高齢者が十分な引越準備を行えない」という課題と、弊社が現に直面していた「引越事業の採算の困難性」という課題をとらえて、それぞれ直接的な解決につながるよう、明確かつ具体的な目的を設定している。
事業の有効性	上述のとおり、高齢者、介護サービス提供者、運送事業者三方の利益を生むことができている。
創意・工夫性	単にニーズを捉えて事業化しただけでなく、実施にあたり、介護施設との協力関係を築き、ホームヘルパー有資格者を従事させ、施設入居のみならず遺品処理・遺品整理まで対応することで、サービスの質や利便性を向上させる工夫をした。 また、ホームヘルパー有資格者である弊社専門スタッフが関わることで本サービスの大きな付加価値であるため、提携先事業者の実運送を委託する場合でも、事前の準備段階までは弊社専門スタッフが関わる仕組みとした。
他の事業者への 普及性	本事業は、介護施設との協力関係を築くことができたこと、従業員にホームヘルパー有資格者がいたことなども相まって成果を上げることができたものであるから、同様の事業をそのまま他の事業者が実践できるとは限らない。 しかし、自社の課題解決のみならず、関係者の利益の増進をも目指して、サービスの質を向上させる工夫を行うことは、他の事業者が新規事業の検討や、既存事業の他社との差別化を行うにあたって実践できるものである。